

〈共同研究報告〉

古代和歌集注釈の研究

磯部祥子
小林真由美

以下二本の研究報告は、共同研究「古代和歌集注釈の研究」(二〇二四年度成城大学特別研究助成)における成果である。古代和歌集『萬葉集』と『古今和歌集』は、現代にいたるまで和歌の規範であり、最も読まれてきた和歌集である。その受容史研究として、両集の古注釈書である『萬葉集註釈』と『古今和歌集目録』の書誌的研究をおこなった。

『萬葉集註釈』は鎌倉時代中期の僧仙覚が著した『萬葉集』の注釈書である。東国で生まれた仙覚は、十三歳の時に『萬葉集』の研究を志したという。將軍頼経の命によって『萬葉集』の校訂をおこない、数次にわたって『萬葉集』校訂本を作成した。現在全巻を完備する『萬葉集』の写本は、すべて仙覚新点本系統のものである。奥書によると、『万葉註釈』(十卷)は、文永六年(一二六九)に武蔵国比企郡麻師宇郷(現・埼玉県比企郡小川

町)で著された。

成城大学が所蔵する『萬葉集』註釈は五冊本で、第二冊を欠く四冊である。江戸時代初期の書写と思われ、書写者や旧蔵者は不明である。本共同研究の調査の結果、国文学研究資料館本系統の写本であることがわかった。この系統の写本は、ほかに龍谷大学本、阪本龍門文庫本がある。国文学研究資料館本は第二冊が智仁親王筆で、他の二本も、智仁親王にかかわりのある西本願寺門主と曼殊院の旧蔵である。古今伝授が行われていた江戸時代初期の堂上において、『萬葉集註釈』の書写が重ねられていたのである。成城大学本『萬葉集』は、その事実を示す貴重な一本である。詳細は、小林「成城大学本『萬葉集註釈』について」において報告する。

『古今和歌集目録』は、藤原仲実(一〇六四〜一二二二)の原撰と目されている。顕昭『三十六歌仙伝』の影響下において著され、『古今和歌集』歌数(第一部)と歌人の経歴(第二部)を記している。『古今和歌集目録』に記される歌人の経歴には他本にみられない独自のものも含まれている。本研究では、『古今和歌集目録』諸本の比較を通じて平安時代以降の『古今和歌集』研究の歴史を考察し、研究基盤整備のために、磯部が以前より続けている『古今和歌集目録』の校本作成をおこなった。

共同研究の成果報告として、磯部「『古今和歌集目録』校本稿(第二部)」を掲載した。「『古今和歌集目録』校本稿(第一部・作者歌数)」(磯部祥子、『成城国文学』第三十七号所収、二〇二一年三月)の続稿である。底本には、群書類従本を用い、宮内庁書陵部本・国文学研究資料館初雁文庫本・国立公文書館内閣文庫本・肥前島原松平文庫本(一冊)・同(二冊)・賀茂別雷神社三手文庫今井似閑本・大洲市立図書館矢野玄道文庫本・山口県立山口図書館本の八本と校合した。